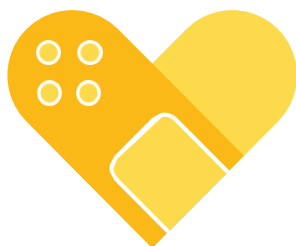
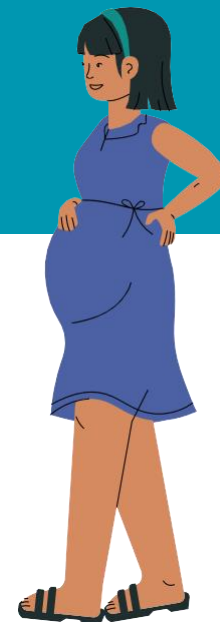


# ワクチン接種

## 妊娠中の方へ



妊娠中の方は、ワクチンであなたとあなたの赤ちゃんを予防可能な病気から守ることができます。ワクチンは、有害なウイルスや細菌を体内で認識させ、あなたとお腹の中の赤ちゃんの健康を守るために特別な抗体を作ることを教えます。妊娠中にワクチン接種を受けると、胎児に抗体が移行します。この抗体であなたの赤ちゃんは、生後数ヶ月間、重篤な疾患から守られているのです。

### 知っておくべきこと:

- 妊娠中に受けるワクチンは、妊娠中の方やお腹の中の赤ちゃんにとって、安全なものです。
- ワクチンを受けることがまだできない新生児を重篤な病気から守るために、妊娠中にワクチンを受けることが最も効果的な手段となります。

### 妊娠中に必要なワクチン

#### Tdapワクチン:

- 赤ちゃんの百日咳を予防するため、妊娠毎、妊娠27週～36週にTdapワクチンを接種しましょう。
- 百日咳は、新生児にとって特に深刻であり、生命を脅かす恐れもあります。

#### 新型コロナワクチン:

- 新型コロナワクチンは、妊娠中の時期を問わずいつでも安全に接種することができます。
- 妊娠中に新型コロナウイルスに感染すると、妊娠していない人に比べ重症化するリスクが高いと考えられています。
- 新型コロナワクチンを常に最新の状態に保つことで、赤ちゃんが新型コロナワクチンを受けられるようになるまでの生後数ヶ月間、守られることになります。

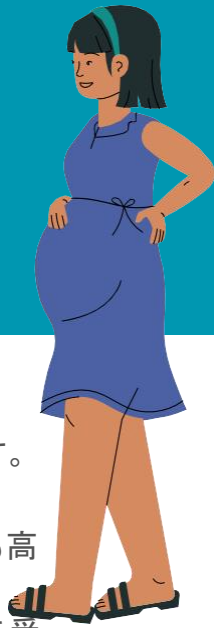
#### Tdapワクチン:

- 妊娠中の方は、9月から1月の間、RSウイルスから新生児を守るために、単回接種のRSウイルスワクチンを妊娠32週～36週に受けることができます。RSウイルスは、乳児に細気管支炎や肺炎を引き起こします。
- RSウイルスが引き起こす乳児の重篤な病気を予防するためには、RSウイルスの流行時期に妊婦がRSワクチン接種を受けるか、出生後すぐにnirsevimab(ニルセビマブ)の予防接種を赤ちゃんにすることが推奨されています。ほとんどの乳児は両方の接種を必要としません。



# ワクチン接種

## 妊娠中の方へ



### インフルエンザワクチン:

- インフルエンザワクチンは、妊娠中の時期を問わずいつでも安全に接種することができます。
- 妊娠している人はインフルエンザが重症化しやすいといわれています。
- 生後6ヶ月未満の赤ちゃんは、他の年齢の子供に比べインフルエンザで入院する確率が最も高いとされています。
- インフルエンザワクチン接種を常に最新の状態に保つことであなた自身を守り、ワクチンを受けることができるようになるまでの生後数ヶ月の間、赤ちゃんを守ることができます。

### B型肝炎ワクチン:

B型肝炎のワクチン接種を受けたことがない妊娠中の方は、B型肝炎ウイルスによる感染や病気に自分自身や赤ちゃんを守るためにB型肝炎ワクチンを受ける必要があります。B型肝炎は、肝臓に長期的なダメージを与えることがあります。

### 出生時に新生児に必要なワクチン

#### B型肝炎ワクチン:

- 新生児はB型肝炎を予防するために、生後24時間以内に、B型肝炎ワクチンの初回接種を受ける必要があります。

#### RSウイルス予防接種 (Nirsevimab):

- 妊娠中にRSウイルスワクチンを受けていない場合や、あなたの赤ちゃんがRSワクチンを受けてから14日以内に生まれた場合は、新生児を重篤な病気から守るために、RSウイルスの流行時期かその前にnirsevimabを1回受ける必要があります。RSウイルスは新生児が入院する最も一般的な原因となる病原体です。

赤ちゃんには、抗生物質の点眼薬、ビタミンKの注射、新生児スクリーニング検査用に簡単な血液検査も行います。質問がある際は、妊婦健診の担当医にご相談ください。



### 公衆衛生コールセンター

詳細は、公衆衛生コールセンターまでお問い合わせください。  
**1-833-540-0473** (年中無休、受付は午前8時から午後8時まで)